

子供たちに五感を使った遊び場を

芽室町 ひばりわくわく広場実行委員会

「これ、すごく楽しいからやってみて」と父親から教わった中国コマを大人顔負けに軽々と回しながら、小学校2年生の伊藤和音ちゃんは、目を輝かせながらそう話す。1年生のときもここにきてたんだ……。積み木やコマ回しに夢中になる子供たち。その傍らで大人たちも優しい眼差しを向けながら共に遊び、時間を共有する。遊びが終わると子供たちは自主的に片付けを行う。

ここは、芽室町内の公共施設を会場にして小学生の放課後の居場所をつくる活動をしている「ひばりわくわく広場実行委員会」。



日直の子供がその日の「子供リーダー」として出欠確認なども行う

毎年4月に、芽室町内の芽室小学校と芽室西小学校がある2校にチラシを置くなどして子供たちを募集し、5月から11月まで毎週水曜日に行っている。今のところ要望は少なくないため冬期間は実施していないが、今後は冬期の特別プログラムも検討しているという。参加費用は保険と雑費を含めて1000円。

必ず「これからワクワク広場をはじめます。立ってください」という日直の子供の挨拶から始まる。出欠確認をして、人前で自分の考えを伝えることができるようにと、今日の一言を発表。記者が訪れた日には、「跳び箱が飛べるようになりました」と発言すると拍手が起こっていた。

夏は外での遊びを中心に、天気の悪い日はホールや体育館を借りて、室内遊びをする。遊びのメニューはバラエティに富んでおり、外遊びのときは、縄跳びや凧揚げ、キックベースなど。室内ではボードゲーム、将棋、囲碁をしたり、今はカプラという積み木が人気。室内でも風船バレーや、大縄跳びをする。このほか、花びらをつぶして色水を作って布を染めたり、流しそうめんなど季節感を味わえ

るメニューもある。竹馬、コマ回し、お手玉、綾取り、竹わり、パッチなど、昔の子供たちが夢中になった遊びも取り入れ、心と身体を十分に働かせることのできる遊びを提供する。昔遊びの道具は、町内の人からもらったものが多い。

2010年からは、2時間のうち、前半、後半に分けてその間に、一息タイムを設けて紙芝居や大型絵本の読み聞かせも入れるようにした。最終日には、その年の5月～11月まで一度も休まなかった子供に表彰状と折り紙で作ったメダルを渡す。このメダルを目標とする子供もいるという。



大人も子供も一緒になって楽しむ

■違う年齢の子供たちが集える遊び場を

この活動がはじまったのは2005年のこと。地域の中で子育てを助け合おうと様々な活動を展開している子育て支援組織「育児ネットめむろ」で活動している上田睦子さんの声かけで始まった。「小学校に通い出したら『育児ネット』を利用

する親がいなくなるんです。小学生は一人前の扱いをされるんですね。でも幼稚園の年長さんと小学1年生とではどれほど違うのか？という気持ちが私の中にありましたし、地域で一緒になって違う年齢の子供たち同士で遊ぶ場が少なくなっていたので、スタッフと一緒に子どもたちの放課後の居場所をつくりたかったのです」

最初の年は大人のスタッフは4、5人、子供は月に10～13人ほど。3年目からは、子供たちや、母親同士の口コミで浸透して徐々に増え、開始から6年までは、多い年は36人が登録したこともあった。ただ、人数が多いとスタッフが子供一人ひとりに目が行き届かないため、十分に子供が遊ばないまま帰ってしまったということもあり、30人という定員枠を設けた。ここ2年間は1年生から6年生まで24人が登録している。人数が減った理由のひとつが、児童館が芽室小学校と芽室西小学校の区域にできたこと。「子供の居場所が増えてきたのは、私たちにとっても歓迎すべきことです。町の子育て支援課にも要望していたので、こちらにくる子供が減っていくのはある意味で喜ばしいです」と上田さん。



「カブラ」という積み木に夢中になる子供たち

平成 17・18 年度は、文科省委託事業として、19 年度からは子どもゆめ基金の助成事業として取り組んだ。21 年度からは、町の子育て支援課から地域放課後児童対策事業として助成されており、その中からスタッフにお金が支払われる。

■ 地域の達人も講師に

スタッフの登録人数は 11 人、常時 7、8 人がいる。年齢層は 30 代から 60 代まで。「子供に対する接し方も見方も年代によって違うのでスタッフの年齢バランスも大事。30 代で子育てに夢中になっている人は周りが見えないこともあって、50 代、60 代のスタッフが子供に接する様子を見て、自分の子に対してちょっと怒鳴ってばかりだったかなとか、そんなふうに気づくことも多いんです」

スタッフも一人ひとりの子供の発達や性格を見極めながら、一緒に遊ぶ。最初は幼稚園の先生をしていた経験がある人が大人のリーダーとして力を発揮していたが、その人が転勤していなくなってしまったため、ここ 4 年ぐらいは毎週、

リーダーを決め、スタッフ会議も毎月実施している。

スタッフと一緒に過ごすだけでなく、もっと色々な体験ができるようにと、地域の達人を講師として招くこともしている。夏休みの特別プログラムとして、町内在住の写真家、小寺卓矢さんが指導して、小学生が撮影した写真を使った絵本づくりを行った。この写真絵本は、図書館の展示コーナーを借りて、展示もされた。このほか、助産師さんを招いて生命の大切さを説明してもらったり、防災訓練を伝える指導者、ファシリテーターを呼び、地図への書き込みを通して、積極的に災害の対応策を考えることが出来る災害イメージ訓練も行った。



オセロに熱中する子どもたち

来年からは、音楽やダンスも取り入れたいという。

「今の子供たちはゲームやテレビが好きですけど、五感を使って遊ぶことは子供の発達にとっても大切だと思うので、

もっと若いスタッフを増やして、ずっとこうした場を続けてほしいというのが願い」と上田さん。

かつてのように地域のコミュニティで自然に子供たちが遊べる環境がないのは寂しいが、違った形で子供たちが成長できる場があるのは貴重かもしれない。



■ 連絡先

〒082-0030

芽室町本通り南1丁目 1-15
ひばりワクワク広場実行委員会

代表 上田睦子

TEL 0155-62-5586

FAX 0155-62-5586